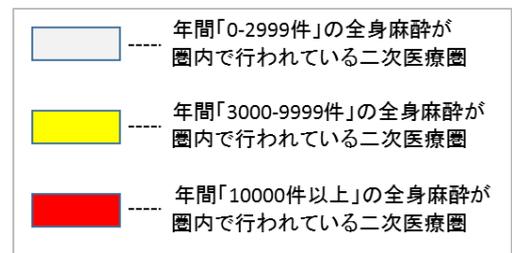
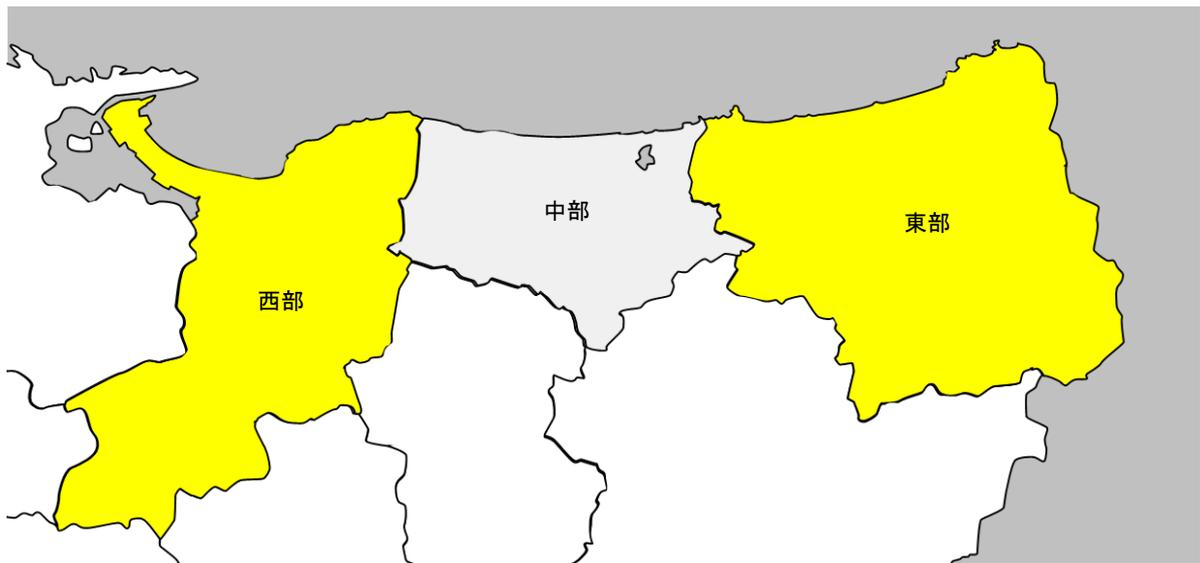


31. 鳥取県

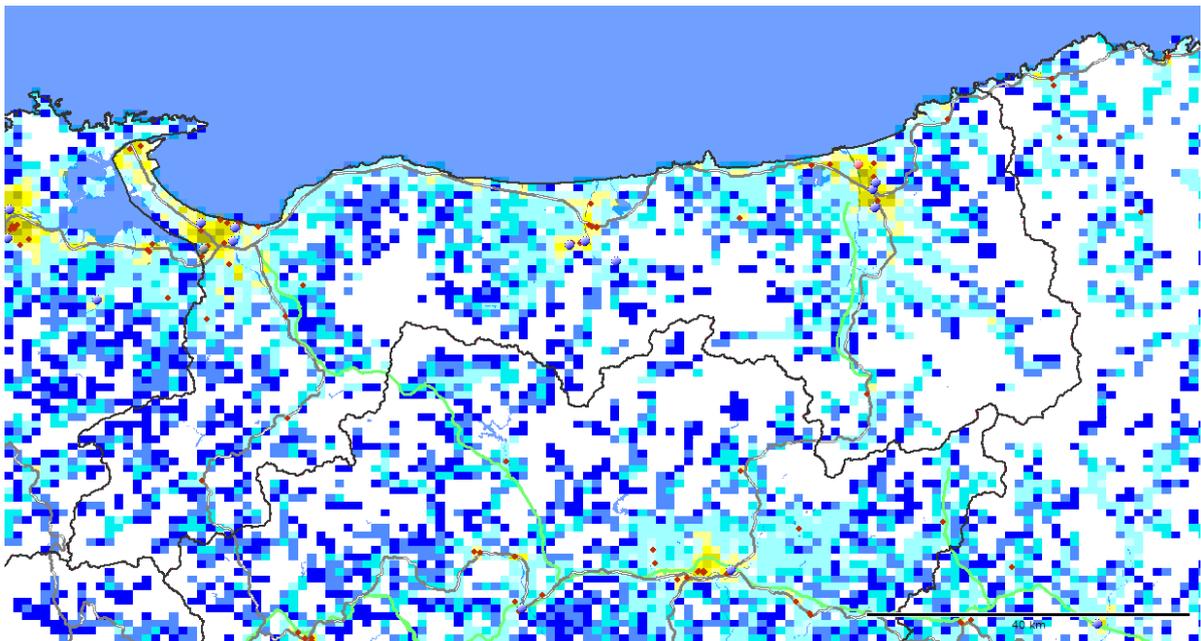


目次

鳥取県	31	-	3
資料編 一 当県ならびに二次医療圏別資料	31	-	8
1. 東部医療圏	31	-	20
2. 中部医療圏	31	-	25
3. 西部医療圏	31	-	30

31. 鳥取県

人口分布 (1km²区画単位)



1km²区画 (1km²メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。
赤色系統は人口が多く (10,000人/km²以上)、黄色系統は
中間レベル (1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が
少ない (1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
出所：国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報GIS
Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ

区画内人口(1平方キロ)



DPC病院



(鳥取県) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

- *人口、面積など： 鳥取県は、総人口約573千人(2015年)、面積3,507km²、人口密度は164人/km²である。
- *人口の将来予測： 鳥取県の総人口は2025年に537千人へと減少し(2015年比-6%)、2040年に472千人へと減少する(2025年比-12%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の90千人が、2025年にかけて106千人へと増加し(2015年比+18%)、2040年には110千人へと増加する(2025年比+4%)ことが予想される。
- *医療費と介護給付費： 鳥取県の一人当たり医療費(国保)は377千円(偏差値57)、介護給付費は298千円(偏差値63)であり、医療費、介護給付費ともに高い。

【医療の現状】

- *入院医療の充実度： 鳥取県の一人当たり急性期医療密度指数は1.33、一人当たり慢性期医療密度指数は1.28で、急性期の医療も慢性期の医療も充実している。
- *医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が56(病院医師数56、診療所医師数56)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともに多い。総看護師数の偏差値は59と多い。
- *一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は56で、一般病床は多い。全身麻酔数の偏差値は45とやや少ない。
- *療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は53と療養病床数はやや多い。
- *リハビリの現状： 総療法士数は偏差値61と多く、回復期病床数は偏差値61と多い。
- *精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は53で精神病床数はやや多い。
- *診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は54で診療所数はやや多い。

【介護施設や在宅ケアの現状】

- *介護施設の現状： 鳥取県の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、10,414人(75歳以上1,000人当たりの偏差値57)と全国平均レベルを上回る。そのうち、介護保険施設の定員が6,722床(偏差値60)、高齢者住宅等が3,692床(偏差値49)である。介護保険施設は全国平均レベルを上回り、高齢者住宅等は全国平均レベルである。また、介護職員(介護施設等)の合計は、8,896人(75歳以上1,000人当たりの偏差値67)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。
施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設74、特別養護老人ホーム49、介護療養型医療施設48、有料老人ホーム41、軽費ホーム57、グループホーム54、サ高住56である。
- *在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値50と全国平均レベルであり、在宅療養支援病院は偏差値47とやや少ない。また、訪問看護ステーションは偏差値57と多い。介護職員(在宅)の合計は、974人(75歳以上1,000人当たりの偏差値45)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルをやや下回る。
- *介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は+4%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数でほぼ対応可能である。

2. 推移

【人口と医療需要】

鳥取県の総人口は、2005年607,012人が、2015年に573,441人と6%減少し、2025年の人口が536,747人と予測され、2005年→2025年の間に12%程度の減少が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に4%増加し、2015年から2025年にかけて2%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

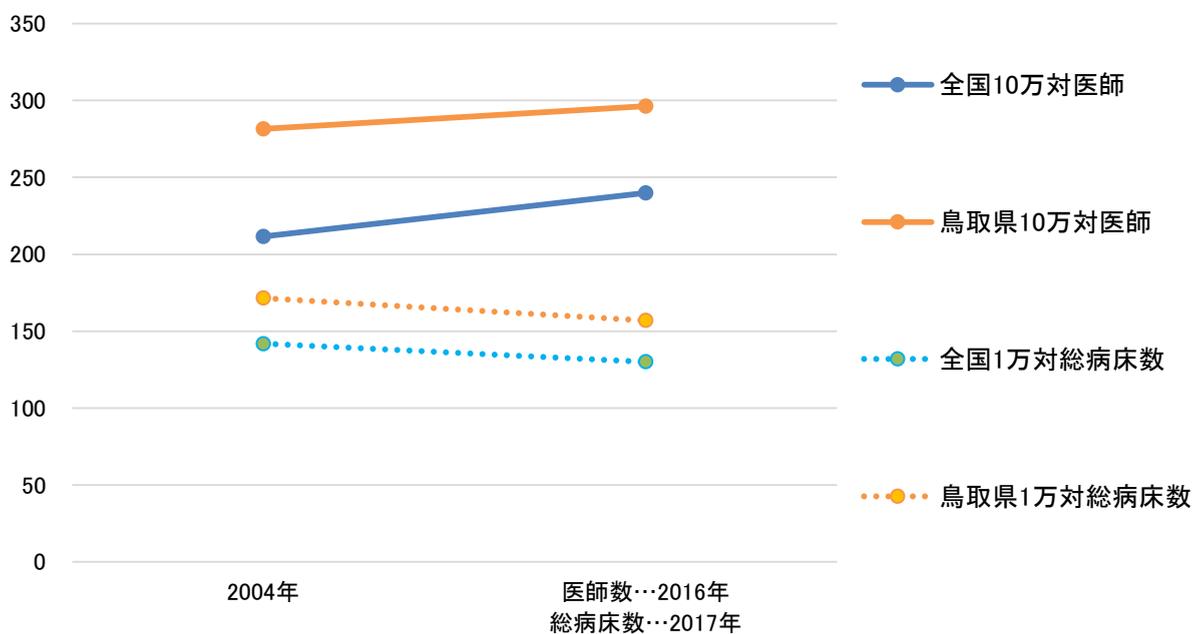
2004年の病院数が46(人口10万人当たり7.6病院(全国平均7.1)偏差値51)であったが、2017年に44(人口10万人当たり7.7病院(全国平均6.6)偏差値52)となり、13年間で2病院が減少した。

2004年の診療所数が553(人口10万人当たり91診療所(全国平均76)偏差値58)であったが、2017年に497(人口10万人当たり87診療所(全国平均80)偏差値54)と、56診療所が減少した。

2004年の総病床数が10,410床(人口1万人当たり171(全国平均142)偏差値55)であったが、2017年に9,001床(人口1万人当たり157(全国平均130)偏差値55)と、1,409床の減少、率にして14%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

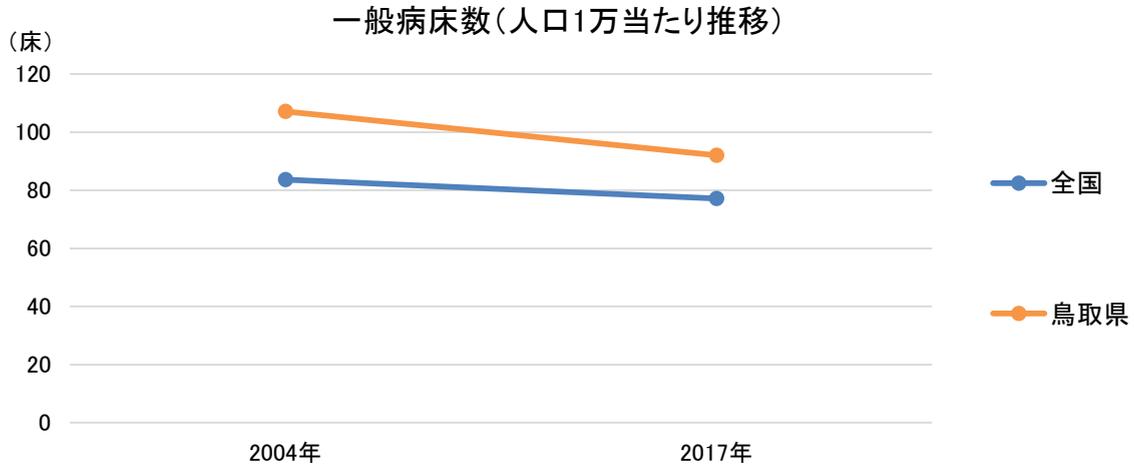
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が1,709人(人口10万人当たり282人(全国平均212人)偏差値58)であったが、2016年に1,699人(人口10万人当たり296人(全国平均240人)偏差値56)と、10人の減少、率にして1%の減少(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



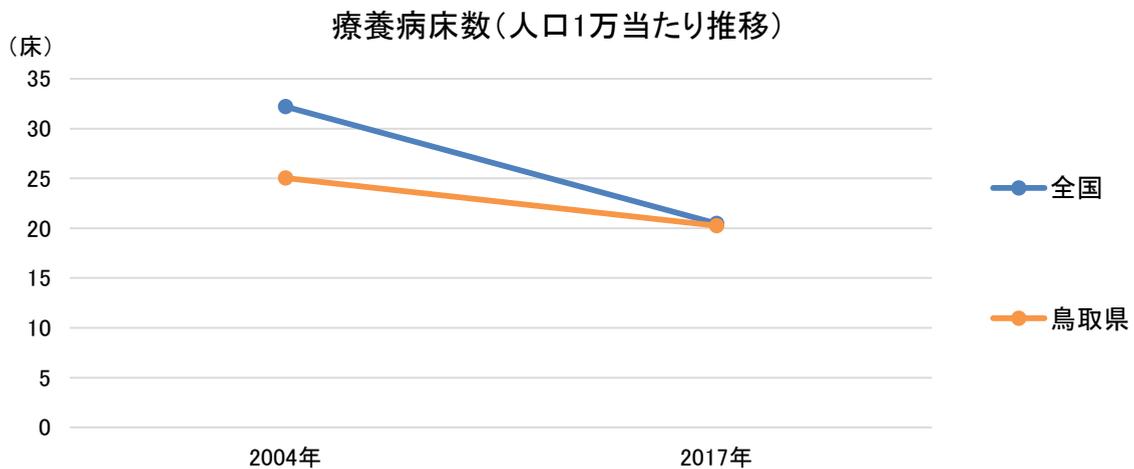
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が6,500床(人口1万人当たり107(全国平均84)偏差値58)であったが、2017年に5,276床(人口1万人当たり92(全国平均77)偏差値56)と、1,224床の減少、率にして19%の減少(全国平均8%の減少)が見られた。



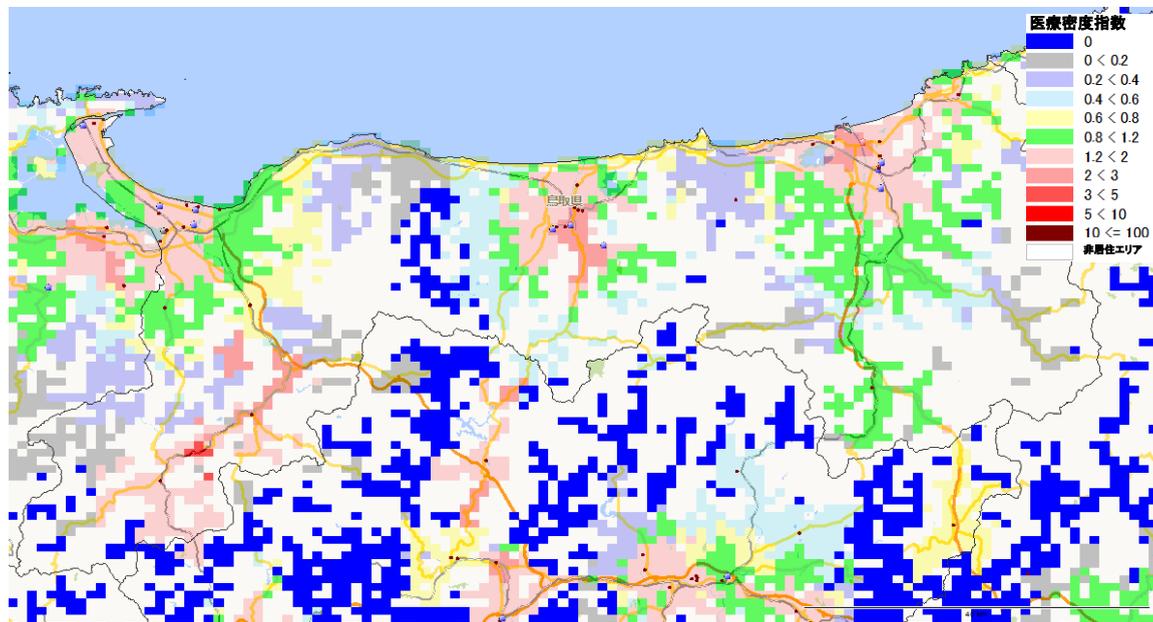
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が1,879床(75歳以上1,000人当たり25(全国平均32)偏差値46)であったが、2017年に1,832床(75歳以上1,000人当たり20(全国平均20)偏差値50)と、47床の減少、率にして3%の減少(全国平均11%の減少)が見られた。



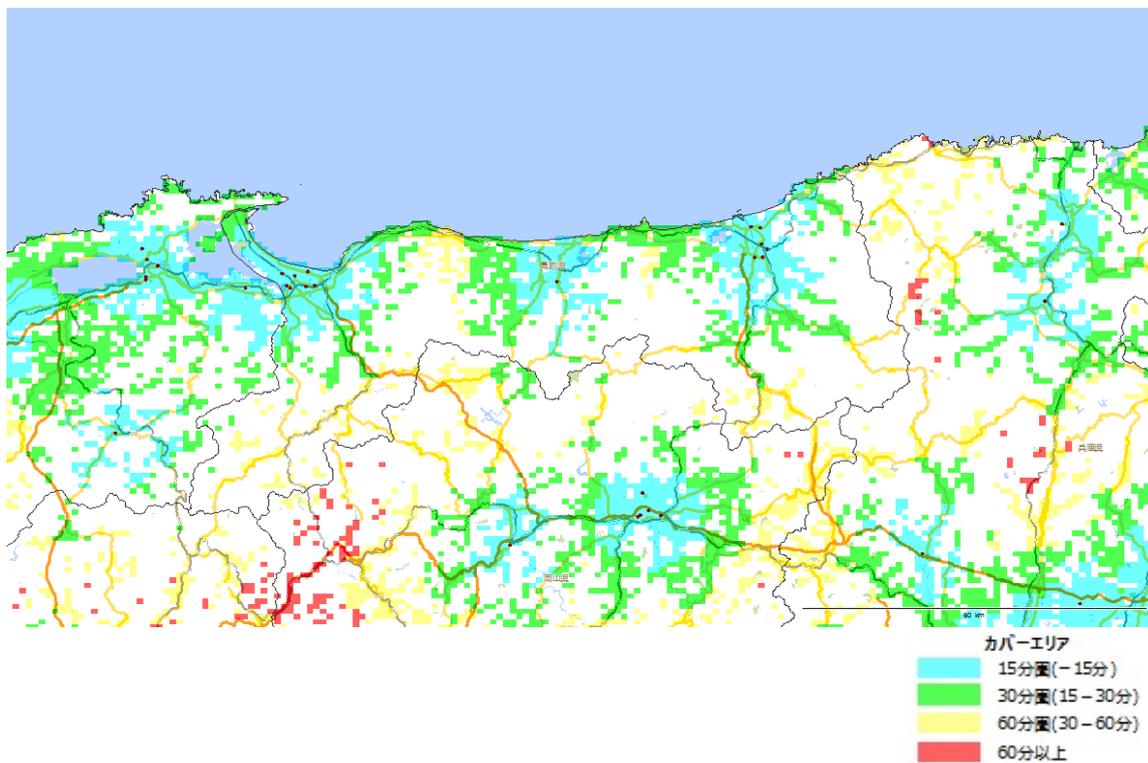
(鳥取県) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表31-1 急性期医療密度指数マップ



図表31-2 分娩医療機関への所用運転時間(カバーエリア)

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400))



資料編 ー 当県ならびに二次医療圏別資料

資_図表 31-1 地理情報・人口動態

二次医療圏	人口 (単位: 千人)	県内 シェア	面積	県内 シェア	人口 密度	地域タイプ	高齢 化率	2025年 総人口 (単位: 千人)	2040年 総人口 (単位: 千人)	2015年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2025年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2040年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2015→ 25年 総人口 増減率	2025→ 40年 総人口 増減率	2015→ 25年 75歳以上 人口 増減率	2025→ 40年 75歳以上 人口 増減率
全国	127,095		372,950		340.8		27%	122,544	110,919	16,322	21,800	22,392	-4%	-9%	34%	3%
鳥取県	573	47位	3,507	41位	163.5		30%	537	472	90	106	110	-6%	-12%	18%	4%
東部	233	41%	1,518	43%	153.2	地方都市型	28%	216	188	35	41	44	-7%	-13%	17%	7%
中部	104	18%	780	22%	133.7	過疎地域型	32%	95	79	18	20	21	-9%	-17%	11%	5%
西部	237	41%	1,208	34%	195.7	地方都市型	30%	226	205	38	45	45	-5%	-9%	18%	0%
出典	<人口(2015年)>平成27年国勢調査 人口等基本集計 平成27年10月 <人口(2025年、2040年)>日本の地域別将来推計人口 国立社会保障・人口問題研究所 平成30年3月 <面積>平成27年国勢調査 人口等基本集計 平成27年10月															

資_図表 31-2 一人当たり医療密度指数、介護充足度指数

二次医療圏	一人当たり 急性期医療 密度指数	一人当たり 慢性期医療 密度指数	75歳以上介護充足度		
			2016年 ベッド数	2025年目標 ベッド数	2025年充足度 指数 (%)
全国	1.00	1.00	1,485,377	1,772,098	-19.3%
鳥取県	1.33	1.28	8,887	8,530	4.0%
東部	1.43	1.19	2,936	3,257	-10.9%
中部	1.20	1.33	1,874	1,639	12.5%
西部	1.30	1.07	4,077	3,635	10.9%
出典	<一人当たり急性期医療密度指数><一人当たり慢性期医療密度指数>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0が全国平均。0.8を下回ると少ない、0.6を下回ると非常に少ない、1.2以上充実、1.5以上非常に充実。(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2016年度版)序章【参考資料】参照(日経総研WP no.375)) <75歳以上介護充足度指数>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。2025年の75歳以上推定人口から算出した高齢者住宅・施設の目標ベッド数が2016年ベッド数と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。				

資_図表 31-3 国保の医療費・地域差指数、全体の介護給付費

二次医療圏	一人あたり医療費 (国保のみ) (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	入院費 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	入院外+ 調剤 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	被保険者 一人あたり 介護給付費 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	347	(43)	1.000	133	(30)	1.000	188	(17)	1.000	252	(35)
鳥取県	377	57	1.038	161	59	1.149	192	52	0.975	298	63
東部	365	54	1.004	159	59	1.136	179	45	0.909	302	64
中部	371	56	1.015	162	59	1.149	189	50	0.949	297	63
西部	392	60	1.064	162	59	1.141	207	61	1.032	296	63
出典	<一人あたり医療費>平成28年度医療費の地域差分析 厚生労働省 <一人あたり介護給付費>平成29年度介護保険事業状況報告(年報) 平成29年度累計(平成29年3月サービス分から平成30年2月サービス分まで) ※介護給付費の二次医療圏値の算定には、福岡県と沖縄県の一部市町村が二次医療圏をまたぐ広域連合を構成しているため、構成市町村の75歳以上人口による按分を用いた。また、複数の二次医療圏をもつ横浜市および川崎市は同じデータを記載。										

資_図表 31-4 後期高齢者の医療費・地域差指数

二次医療圏	一人あたり 後期高齢者 医療費 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	入院費 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	入院外+ 調剤 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数
全国	919	(120)	1.000	458	(98)	1.000	427	(39)	1.000
鳥取県	895	48	0.961	482	52	1.017	385	39	0.909
東部	851	44	0.906	452	49	0.945	369	35	0.862
中部	923	50	0.994	533	58	1.116	369	35	0.882
西部	922	50	0.988	486	53	1.024	408	45	0.960
出典	<一人あたり医療費>平成28年度医療費の地域差分析 厚生労働省								

資_図表 31-5 病院数、診療所数

二次医療圏	病院数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	診療所数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	8,412		6.6	(4.6)	101,471		80	(18.9)
鳥取県	44	0.5%	7.7	52	497	0.5%	87	54
東部	14	32%	6.0	49	189	38%	81	51
中部	10	23%	9.6	57	80	16%	77	48
西部	20	45%	8.5	54	228	46%	96	59
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月			

資_図表 31-6 診療所数(全体、無床、有床)

二次医療圏	診療所数(再掲)				無床診療所数				有床診療所数			
	診療所数 (再掲)	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	無床 診療所数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	有床 診療所数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	101,471		80	(18.9)	94,269		74	(18.7)	7,202		5.7	(6.0)
鳥取県	497	0.5%	87	54	459	0.5%	80	53	38	0.5%	6.6	52
東部	189	38%	81	51	178	39%	77	51	11	29%	4.7	48
中部	80	16%	77	48	74	16%	71	48	6	16%	5.8	50
西部	228	46%	96	59	207	45%	88	57	21	55%	8.9	55
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月			

資_図表 31-7 病院総病床数、診療所病床数

二次医療圏	病院総病床数				診療所病床数				病院+診療所病床数			
	病院 総病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	診療所 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	病院+ 診療所 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,554,879		1,223	(481)	98,355		77	(94)	1,653,234		1,301	(537)
鳥取県	8,546	0.5%	1,490	56	455	0.5%	79	50	9,001	0.5%	1,570	55
東部	3,455	40%	1,485	55	144	32%	62	48	3,599	40%	1,547	55
中部	1,533	18%	1,470	55	58	13%	56	48	1,591	18%	1,525	54
西部	3,558	42%	1,504	56	253	56%	107	53	3,811	42%	1,611	56
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				病院総病床数と診療所病床数の合計			

資_図表 31-8 病院病床数(一般病床、療養病床、精神病床)

二次医療圏	一般病床数				療養病床数				精神病床数			
	一般 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	療養 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	精神 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	890,865		701	(223)	325,228		256	(203)	331,700		261	(210)
鳥取県	4,839	0.5%	844	56	1,814	0.6%	316	53	1,860	0.6%	324	53
東部	1,913	40%	822	55	706	39%	304	52	817	44%	351	54
中部	936	19%	897	59	315	17%	302	52	278	15%	266	50
西部	1,990	41%	841	56	793	44%	335	54	765	41%	323	53
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月			

資_図表 31-9 回復期リハビリ病棟病床数と地域包括ケア病棟病床数

二次医療圏	回復期 病床数				地域包括 ケア 病床数			
	回復期 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	地域包括 ケア 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	80,806		64	(46)	73,895		58	(63)
鳥取県	666	0.8%	116	61	590	0.8%	103	57
東部	231	35%	99	58	162	27%	70	52
中部	162	24%	155	70	199	34%	191	71
西部	273	41%	115	61	229	39%	97	56
出典	平成29年度病床機能報告 平成29年7月				平成30年5月地方厚生局			

資_図表 31-10 公的病院病床数、民間病院病床数

二次医療圏	公的病院			民間病院			一般病床		療養病床	
	総病床数	一般 病床数	療養 病床数	総病床数	一般 病床数	療養 病床数	公的病院 病床数 の比率	偏差値 *全国は 標準偏差	公的病院 病床数 の比率	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	445,096	396,156	16,674	1,098,305	495,042	301,360	44.5%	(27%)	5.2%	(22%)
鳥取県	4,157	3,560	217	4,425	1,223	1,692	74.4%	61	11.4%	53
東部	1,847	1,523	97	1,599	340	715	81.7%	64	11.9%	53
中部	304	300	0	1,229	636	315	32.1%	45	0.0%	48
西部	2,006	1,737	120	1,597	247	662	87.6%	66	15.3%	54
出典	地方厚生局指定一覧平成30年12月公表データをもとに株式会社ウェルネスが集計 公的病院の分類は、「新公立病院改革プラン」と「公的医療機関等2025プラン」の策定対象医療機関および開設者が国の医療機 関とし、それ以外は民間病院とした。									

資_図表 31-11 全身麻酔件数、分娩件数（年間）

二次医療圏	全身麻酔 件数				分娩件数			
	全身麻酔 件数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	分娩件数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	3,945,312		3,104	(2,557)	923,436		727	(264)
鳥取県	10,728	0.3%	1,871	45	4,284	0.5%	747	51
東部	3,828	36%	1,646	44	2,040	48%	877	56
中部	1,644	15%	1,576	44	372	9%	357	36
西部	5,256	49%	2,222	47	1,872	44%	792	52
出典	平成29年度病床機能報告 ※平成29年6月の月間件数×12				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月 ※平成29年9月の月間件数×12			

31.鳥取県(2018年版)

資_図表 31-12 医師数(総数、病院医師数、診療所医師数)

二次医療圏	総医師数				病院医師数				診療所医師数			
	総医師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	病院医師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	診療所医師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	304,759		240	(90)	202,302		159	(72)	102,457		81	(23)
鳥取県	1,699	0.6%	296	56	1,154	0.6%	201	56	545	0.5%	95	56
東部	524	31%	225	48	328	28%	141	47	196	36%	84	52
中部	211	12%	202	46	129	11%	124	45	82	15%	79	49
西部	964	57%	408	69	697	60%	295	69	267	49%	113	64
出典	病院医師数と診療所医師数の合計				平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月				平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月			

資_図表 31-13 専門医数(総合内科、小児科、産婦人科)

二次医療圏	総合内科専門医数				小児科専門医数				産婦人科専門医数			
	総合内科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	小児科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	産婦人科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	22,522		17.7	(9.2)	13,551		10.7	(4.8)	11,242		8.8	(4.0)
鳥取県	122	0.5%	21.3	54	100	0.7%	17.4	64	58	0.5%	10.1	53
東部	41	34%	17.6	50	23	23%	9.9	48	16	28%	6.9	45
中部	11	9%	10.5	42	11	11%	10.5	50	10	17%	9.6	52
西部	70	57%	29.6	63	66	66%	27.9	86	32	55%	13.5	62
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月											

資_図表 31-14 専門医数(皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科)

二次医療圏	皮膚科専門医数				眼科専門医数				耳鼻咽喉科専門医数			
	皮膚科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	眼科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	耳鼻咽喉科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	5,609		4.4	(2.2)	9,812		7.7	(3.3)	7,687		6.0	(2.6)
鳥取県	25	0.4%	4.4	50	55	0.6%	9.6	56	34	0.4%	5.9	50
東部	7	28%	3.0	44	13	24%	5.6	43	10	29%	4.3	43
中部	2	8%	1.9	38	5	9%	4.8	41	2	6%	1.9	34
西部	16	64%	6.8	61	37	67%	15.6	74	22	65%	9.3	62
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月											

資_図表 31-15 専門医数(精神科、外科、整形外科)

二次医療圏	精神科				外科				整形外科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	9,177		7.2	(3.4)	21,168		16.7	(7.1)	16,463		13.0	(4.6)
鳥取県	50	0.5%	8.7	54	114	0.5%	19.9	55	93	0.6%	16.2	57
東部	14	28%	6.0	47	35	31%	15.0	48	25	27%	10.7	45
中部	5	10%	4.8	43	19	17%	18.2	52	14	15%	13.4	51
西部	31	62%	13.1	67	60	53%	25.4	62	54	58%	22.8	71
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月											

資_図表 31-16 専門医数(泌尿器科、脳神経外科、放射線科)

二次医療圏	泌尿器科				脳神経外科				放射線科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	6,003		4.7	(2.1)	6,763		5.3	(2.4)	5,687		4.5	(3.0)
鳥取県	27	0.4%	4.7	50	27	0.4%	4.7	47	35	0.6%	6.1	55
東部	9	33%	3.9	46	8	30%	3.4	42	6	17%	2.6	44
中部	2	7%	1.9	37	5	19%	4.8	48	2	6%	1.9	42
西部	16	59%	6.8	60	14	52%	5.9	53	27	77%	11.4	73
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月											

資_図表 31-17 専門医数(麻酔科、病理、救急科)

二次医療圏	麻酔科				病理				救急科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	7,107		5.6	(3.3)	1,603		1.3	(1.0)	3,795		3.0	(1.9)
鳥取県	39	0.5%	6.8	54	11	0.7%	1.9	57	16	0.4%	2.8	49
東部	12	31%	5.2	49	4	36%	1.7	55	4	25%	1.7	43
中部	2	5%	1.9	39	1	9%	1.0	47	2	13%	1.9	44
西部	25	64%	10.6	65	6	55%	2.5	63	10	63%	4.2	56
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月											

資_図表 31-18 専門医数(形成外科、リハビリテーション科)

二次医療圏	形成外科 専門医数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	リハビリテ- ーション科 専門医数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	2,141		1.7	(1.3)	2,516		2.0	(1.4)
鳥取県	5	0.2%	0.9	44	17	0.7%	3.0	57
東部	1	20%	0.4	40	5	29%	2.1	51
中部	0	0%	0	37	0	0%	0	36
西部	4	80%	1.7	50	12	71%	5.1	72
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月							

資_図表 31-19 看護師数(総数、病院看護師数、診療所看護師数)

二次医療圏	総看護師 数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	病院 看護師数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	診療所 看護師数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,145,134		901	(287)	919,205		723	(243)	225,929		178	(71)
鳥取県	6,673	0.6%	1,164	59	5,635	0.6%	983	61	1,039	0.5%	181	50
東部	2,677	40%	1,151	59	2,313	41%	995	61	364	35%	156	47
中部	1,134	17%	1,087	56	932	17%	893	57	202	19%	194	52
西部	2,862	43%	1,210	61	2,389	42%	1,010	62	473	46%	200	53
出典	病院看護師数と診療所看護師数の合計				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月			

資_図表 31-20 総療法士数と薬剤師数

二次医療圏	総療法士 数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	薬剤師 数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	139,385		110	(57)	301,323		237	(98)
鳥取県	973	0.7%	170	61	1,134	0.4%	198	46
東部	344	35%	148	57	433	38%	186	45
中部	181	19%	174	61	193	17%	185	45
西部	447	46%	189	64	508	45%	215	48
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月			

資_図表 31-21 在宅医療施設数(在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院、訪問看護ステーション)

二次医療圏	在宅療養支援診療所				在宅療養支援病院				訪問看護ステーション			
	在宅療養支援診療所	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	在宅療養支援病院	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	訪問看護ステーション	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	14,224		0.9	(0.4)	1,386		0.1	(0.1)	10,994		0.7	(0.2)
鳥取県	78	0.5%	0.9	50	6	0.4%	0.1	47	74	0.7%	0.8	57
東部	27	35%	0.8	48	1	17%	0.0	42	27	36%	0.8	55
中部	11	14%	0.6	44	2	33%	0.1	54	11	15%	0.6	47
西部	40	51%	1.1	54	3	50%	0.1	49	36	49%	1.0	63
出典	届出受理医療機関名簿 地方厚生局 平成30年12月				届出受理医療機関名簿 地方厚生局 平成30年12月				介護サービス情報公表システム 厚生労働省 平成30年6月			

資_図表 31-22 総高齢者施設・住宅定員数、介護保険施設定員(病床)数、高齢者住宅定員数

二次医療圏	総高齢者施設・住宅定員数				介護保険施設定員(病床)数				高齢者住宅定員数			
	総高齢者施設・住宅定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	介護保険施設定員(病床)数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	高齢者住宅定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	1,695,162		104	(17)	1,001,413		61	(12)	693,749		43	(16)
鳥取県	10,414	0.6%	115	57	6,722	0.7%	74	60	3,692	0.5%	41	49
東部	3,328	32%	96	45	2,433	36%	70	57	895	24%	26	39
中部	2,150	21%	118	58	1,415	21%	78	63	735	20%	40	49
西部	4,936	47%	131	66	2,874	43%	76	62	2,062	56%	55	58
出典	介護保険施設定員(病床)数と高齢者住宅定員数の合計				老人保健施設(老健)定員数、特別養護老人ホーム(特養)定員数、介護療養病床数の合計				有料老人ホーム、軽費ホーム、グループホーム、サ高住の合計			

資_図表 31-23 老人保健施設(老健)定員数、特別養護老人ホーム(特養)定員数、介護療養病床数

二次医療圏	老人保健施設(老健)定員数				特別養護老人ホーム(特養)定員数				介護療養病床数			
	老人保健施設(老健)定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	特別養護老人ホーム(特養)定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	介護療養病床数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	366,589		22	(5.9)	575,180		35	(9.9)	59,644		3.7	(4.0)
鳥取県	3,313	0.9%	37	74	3,136	0.5%	35	49	273	0.5%	3.0	48
東部	937	28%	27	58	1,274	41%	37	52	222	81%	6.4	57
中部	801	24%	44	87	614	20%	34	48	0	0%	0	41
西部	1,575	48%	42	83	1,248	40%	33	48	51	19%	1.4	44
出典	平成30年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 31-24 有料老人ホーム定員数、軽費ホーム定員数、グループホーム定員数

二次医療圏	有料老人ホーム	有料老人ホーム			軽費ホーム	軽費ホーム			グループホーム	グループホーム		
		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	237,141		14.5	(10.8)	23,297		1.4	(2.1)	201,436		12.3	(5.8)
鳥取県	457	0.2%	5.1	41	262	1.1%	2.9	57	1,314	0.7%	14.5	54
東部	86	19%	2.5	39	90	34%	2.6	56	297	23%	8.6	43
中部	0	0%	0	37	0	0%	0	43	459	35%	25.2	72
西部	371	81%	9.9	46	172	66%	4.6	65	558	42%	14.8	54
出典	平成30年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 31-25 サービス付き高齢者専用賃貸住宅(サ高住)定員数

二次医療圏	サ高住 (全施設)	サ高住(全施設)			サ高住 (特定施設)	サ高住(特定施設)			サ高住 (非特定施設)	サ高住(非特定施設)			
		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	
全国	231,875		14.2	(7.0)	22,090		1.4	(1.8)	209,785		12.9	(6.8)	
鳥取県	1,659	0.7%	18.3	56	132	0.6%	1.5	51	1,527	0.7%	16.9	56	
東部	422	25%	12.2	47	30	23%	0.9	47	392	26%	11.3	48	
中部	276	17%	15.1	51	0	0%	0	43	276	18%	15.1	53	
西部	961	58%	25.6	66	102	77%	2.7	58	859	56%	22.8	65	
出典	サ高住(特定施設)とサ高住(非特定施設)の合計			平成30年6月 国土交通省・厚生労働省 サービス付き高齢者向け住宅 情報提供システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの					平成30年6月 国土交通省・厚生労働省 サービス付き高齢者向け住宅 情報提供システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの				

資_図表 31-26 介護サービス従事看護師数(介護施設、訪問看護)(常勤換算)

二次医療圏	介護サービス従事 看護師数	介護施設			看護師数 (施設)	訪問看護			看護師数 (訪問)	訪問看護		
		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	171,768		10.5	(2.3)	120,155		7.4	(2.0)	51,613		3.2	(1.1)
鳥取県	1,142	0.7%	12.6	59	826	0.7%	9.1	59	316	0.6%	3.5	53
東部	450	39%	13.0	61	345	42%	10.0	63	105	33%	3.0	49
中部	177	15%	9.7	46	127	15%	7.0	48	50	16%	2.7	46
西部	516	45%	13.7	64	354	43%	9.4	60	162	51%	4.3	61
出典	平成30年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 31-27 介護サービス従事介護職員数(介護施設等、在宅介護)(常勤換算)

二次医療圏	介護サービス従事介護職員数	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護職員数 (介護施設等)				介護職員数 (在宅)			
					全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護職員 数 (在宅)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	
全国	1,507,968		92	(12.4)	1,286,309		79	(11.2)	221,659		13.6	(5.6)
鳥取県	9,869	0.7%	109	63	8,896	0.7%	98	67	974	0.4%	10.8	45
東部	3,699	37%	107	62	3,367	38%	97	66	332	34%	9.6	43
中部	1,992	20%	109	64	1,824	21%	100	69	169	17%	9.3	42
西部	4,178	42%	111	65	3,705	42%	99	68	473	49%	12.6	48
出典	平成30年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 31-28 在宅医療・介護サービス利用者数(月間)

二次医療圏	在宅医療 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	訪問看護 利用者数				訪問介護 利用者数			
					全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	訪問看護 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	
全国	1,228,040		75	(35)	511,065		31	(13)	1,218,955		75	(26)
鳥取県	5,814	0.5%	64	47	2,331	0.5%	26	46	4,599	0.4%	51	41
東部	1,428	25%	41	40	778	33%	22	43	1,815	39%	52	42
中部	1,186	20%	65	47	383	16%	21	42	755	16%	41	37
西部	3,200	55%	85	53	1,170	50%	31	50	2,029	44%	54	42
出典	平成30年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 31-29 総人口の推移と医療需要の増減(医療費ベース)

二次医療圏	地域タイプ	総人口(2005→2015→2025)					医療需要推移(医療費ベース) (2005→2015→2025)		
		2005年	2015年	2005→ 15年 増減率	2025年 (推計)	2005→ 25年 増減率	2005→ 15年 増減率	2015→ 25年 増減率	2005→ 25年 増減率
全国		127,767,994	127,094,745	-1%	122,544,102	-4%	13%	5%	18%
鳥取県		607,012	573,441	-6%	536,747	-12%	4%	2%	6%
東部	地方都市型	247,469	232,610	-6%	216,141	-13%	4%	2%	6%
中部	過疎地域型	113,177	104,320	-8%	94,548	-16%	1%	-1%	0%
西部	地方都市型	246,366	236,511	-4%	226,058	-8%	7%	2%	9%
出典	<人口(2005年)>平成17年国勢調査 都道府県・市区町村別統計表(男女別人口,年齢(3区分)・割合,就業者数,昼間人口など) <人口(2015年)>平成27年国勢調査 人口等基本集計 平成27年10月 <人口(2025年)>日本の地域別将来推計人口 国立社会保障・人口問題研究所 平成30年3月 ※医療需要は(0~64歳人口)+(65~74歳人口)×3.0+(75歳以上人口)×4.9で算出。								

資_図表 31-30 病院数の推移

二次医療圏	2004年			2017年			2004→2017増減	
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	9,077	7.1	(3.9)	8,412	6.6	(4.6)	-665	-7%
鳥取県	46	7.6	51	44	7.7	52	-2	-4%
東部	15	6.1	47	14	6.0	49	-1	-7%
中部	11	9.7	57	10	9.6	57	-1	-9%
西部	20	8.1	53	20	8.5	54	0	0%
出典	<病院数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <病院数2017年>平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月							

資_図表 31-31 診療所数の推移

二次医療圏	2004年			2017年			2004→2017増減	
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	97,051	76	(20)	101,471	80	(19)	4,420	5%
鳥取県	553	91	58	497	87	54	-56	-10%
東部	213	86	55	189	81	51	-24	-11%
中部	99	87	56	80	77	48	-19	-19%
西部	241	98	61	228	96	59	-13	-5%
出典	<診療所数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <診療所数2017年>平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月							

資_図表 31-32 医師数の推移

二次医療圏	2004年			2016年			2004→2016増減	
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	270,371	212	(84)	304,759	240	(90)	34,388	13%
鳥取県	1,709	282	58	1,699	296	56	-10	-1%
東部	539	218	51	524	225	48	-15	-3%
中部	217	192	48	211	202	46	-6	-3%
西部	953	387	71	964	408	69	11	1%
出典	<総医師数2004年>平成16年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成16年12月 <総医師数2016年>平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月							

資_図表 31-33 総病床数(精神科を含む)の推移

二次医療圏	2004年			2017年			2004→2017増減	
	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	1,812,554	142	(56)	1,653,234	130	(54)	-159,320	-9%
鳥取県	10,410	171	55	9,001	157	55	-1,409	-14%
東部	4,042	163	54	3,599	155	55	-443	-11%
中部	1,836	162	54	1,591	153	54	-245	-13%
西部	4,532	184	58	3,811	161	56	-721	-16%
出典	<総病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <総病床数2017年>平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月							

資_図表 31-34 一般病床数(病院+診療所)の推移

二次医療圏	2004年			2017年			2004→2017増減	
	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	1,068,821	84	(28)	980,151	77	(26)	-88,670	-8%
鳥取県	6,500	107	58	5,276	92	56	-1,224	-19%
東部	2,401	97	55	2,045	88	54	-356	-15%
中部	1,175	104	57	988	95	57	-187	-16%
西部	2,924	119	62	2,243	95	57	-681	-23%
出典	<一般病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <一般病床数2017年>平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月							

資_図表 31-35 療養病床数(病院+診療所)の推移

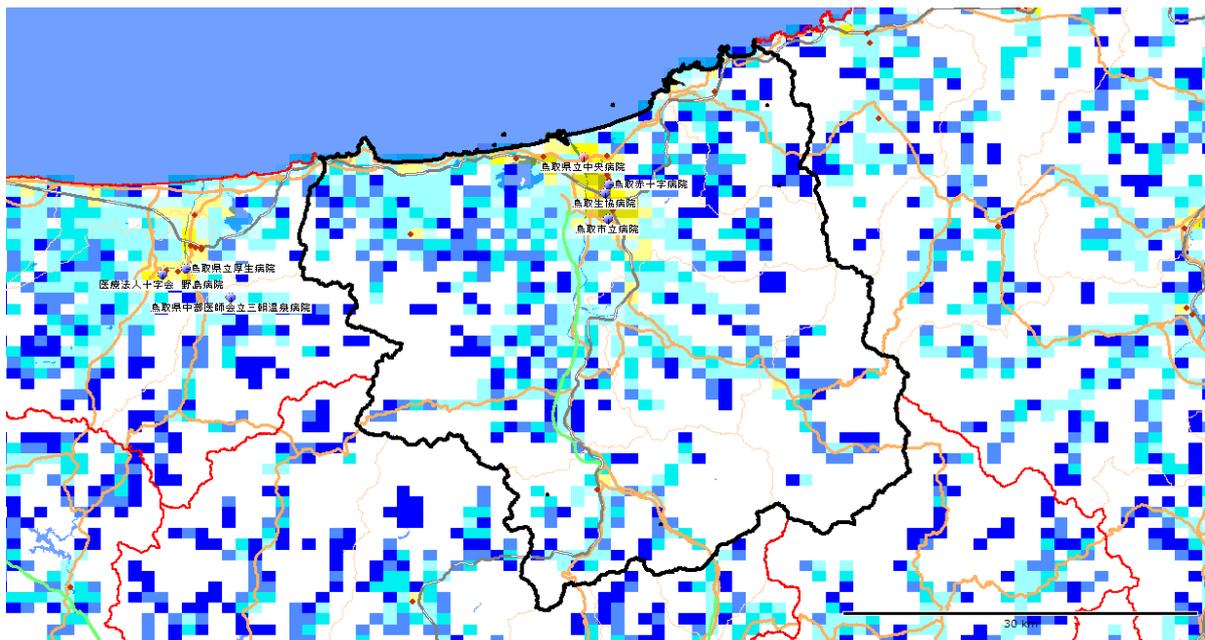
二次医療圏	2004年			2017年			2004→2017増減	
	数	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	373,823	32	(18)	334,297	20	(11)	-39,526	-11%
鳥取県	1,879	25	46	1,832	20	50	-47	-3%
東部	718	25	46	718	21	50	0	0%
中部	379	24	45	321	18	47	-58	-15%
西部	782	26	46	793	21	51	11	1%
出典	<一般病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <一般病床数2017年>平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月							

31-1. とうぶ 東部医療圏

構成市区町村 [鳥取市](#) [岩美町](#) [若桜町](#) [智頭町](#)
[八頭町](#)

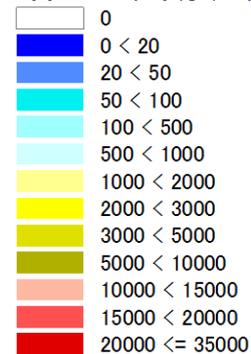
※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布(1km²区画単位)



1km²区画(1km²メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km²以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
 出所：国勢調査(平成22年、総務省)地図情報GIS Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ

区画内人口(1平方キロ)



DPC病院



(東部医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 東部(鳥取市)は、総人口約233千人(2015年)、面積1,518km²、人口密度は153人/km²の地方都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 東部の総人口は2025年に216千人へと減少し(2015年比-7%)、2040年に188千人へと減少する(2025年比-13%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の35千人が、2025年にかけて41千人へと増加し(2015年比+17%)、2040年には44千人へと増加する(2025年比+7%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 東部の一人当たり医療費(国保)は365千円(偏差値54)、介護給付費は302千円(偏差値64)であり、医療費はやや高く、介護給付費は高い。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 東部の一人当たり急性期医療密度指数は1.43、一人当たり慢性期医療密度指数は1.19で、急性期の医療は充実しているが、慢性期の医療は全国平均レベルである。

*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が48(病院医師数47、診療所医師数52)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は59と多い。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は55で、一般病床はやや多い。全身麻酔数の偏差値は44と少ない。東部には、年間全身麻酔件数が1000例以上の鳥取赤十字病院(Ⅲ群)、鳥取県立中央病院(Ⅱ群・救命)、500例以上の鳥取市立病院(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は52と療養病床数は全国平均レベルである。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値57と多く、回復期病床数は偏差値58と多い。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は54で精神病床数はやや多い。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は51で診療所数は全国平均レベルである。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 東部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、3,328人(75歳以上1,000人当たりの偏差値45)と全国平均レベルをやや下回る。そのうち、介護保険施設の定員が2,433床(偏差値57)、高齢者住宅等が895床(偏差値39)である。介護保険施設は全国平均レベルを上回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルを下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、3,367人(75歳以上1,000人当たりの偏差値66)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設58、特別養護老人ホーム52、介護療養型医療施設57、有料老人ホーム39、軽費ホーム56、グループホーム43、サ高住47である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値48と全国平均レベルであり、在宅療養支援病院は偏差値42と少ない。また、訪問看護ステーションは偏差値55とやや多い。介護職員(在宅)の合計は、332人(75歳以上1,000人当たりの偏差値43)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-11%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

(東部医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

東部医療圏の総人口は、2005年247,469人が、2015年に232,610人と6%減少し、2025年の人口が216,141人と予測され、2005年→2025年の間に13%程度の減少が予測されている。

医療の需要(医療費ベース)は、2005年から2015年に4%増加し、2015年から2025年にかけて2%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

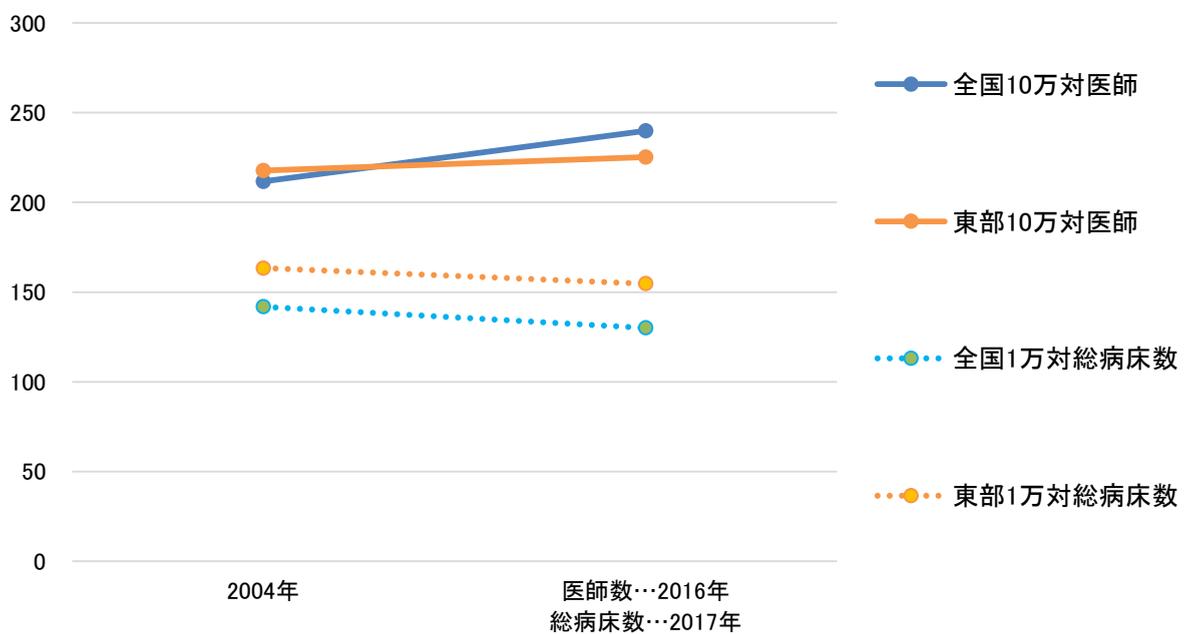
2004年の病院数が15(人口10万人当たり6.1病院(全国平均7.1)偏差値47)であったが、2017年に14(人口10万人当たり6病院(全国平均6.6)偏差値49)となり、13年間で1病院が減少した。

2004年の診療所数が213(人口10万人当たり86診療所(全国平均76)偏差値55)であったが、2017年に189(人口10万人当たり81診療所(全国平均80)偏差値51)と、24診療所が減少した。

2004年の総病床数が4,042床(人口1万人当たり163(全国平均142)偏差値54)であったが、2017年に3,599床(人口1万人当たり155(全国平均130)偏差値55)と、443床の減少、率にして11%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

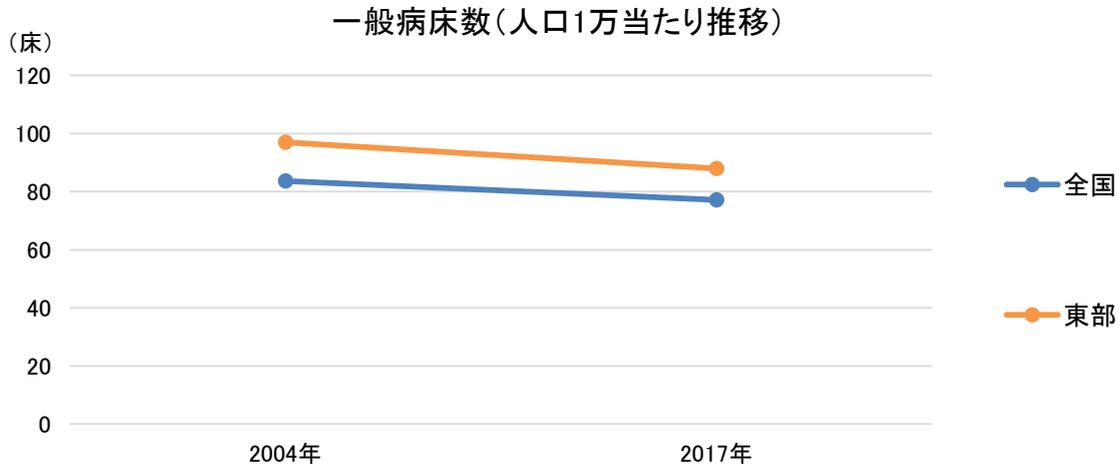
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が539人(人口10万人当たり218人(全国平均212人)偏差値51)であったが、2016年に524人(人口10万人当たり225人(全国平均240人)偏差値48)と、15人の減少、率にして3%の減少(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



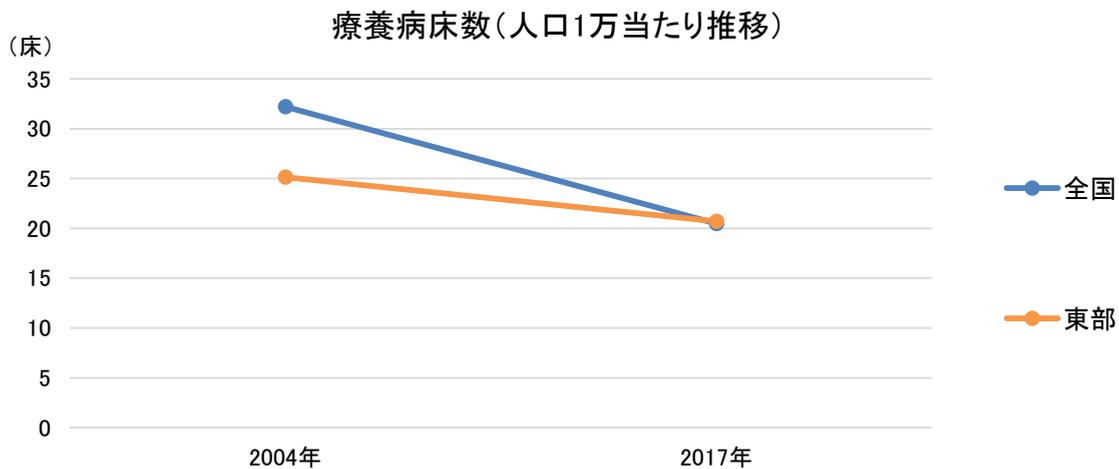
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が2,401床(人口1万人当たり97(全国平均84)偏差値55)であったが、2017年に2,045床(人口1万人当たり88(全国平均77)偏差値54)と、356床の減少、率にして15%の減少(全国平均8%の減少)が見られた。



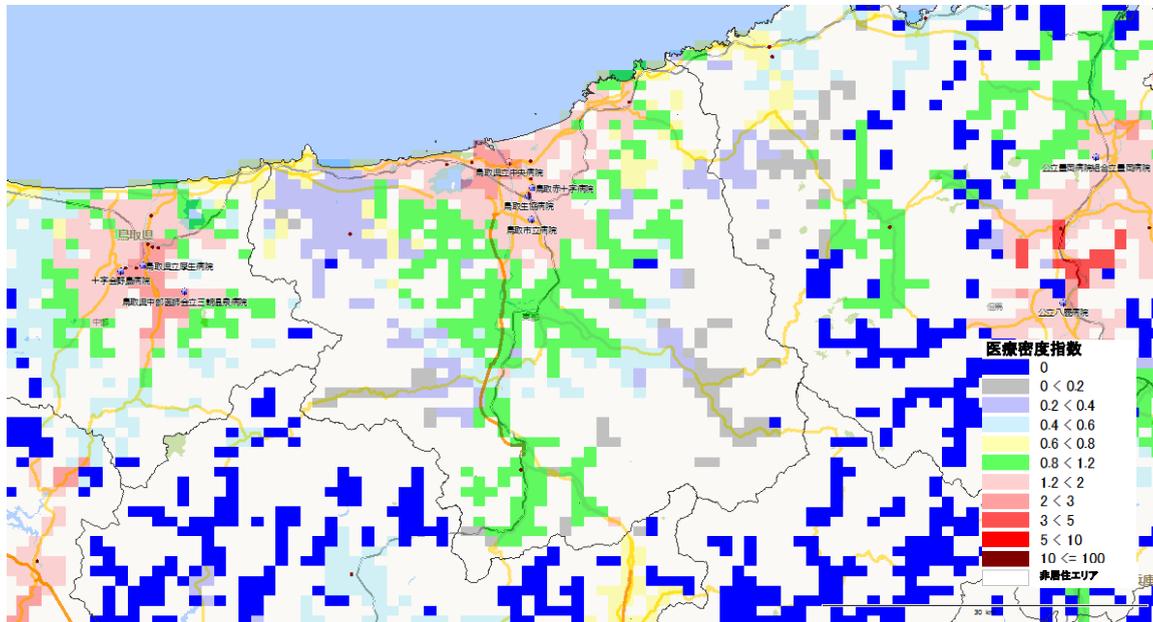
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が718床(75歳以上1,000人当たり25(全国平均32)偏差値46)であったが、2017年に718床(75歳以上1,000人当たり21(全国平均20)偏差値50)と、増減がなかった(全国平均9%の減少)。



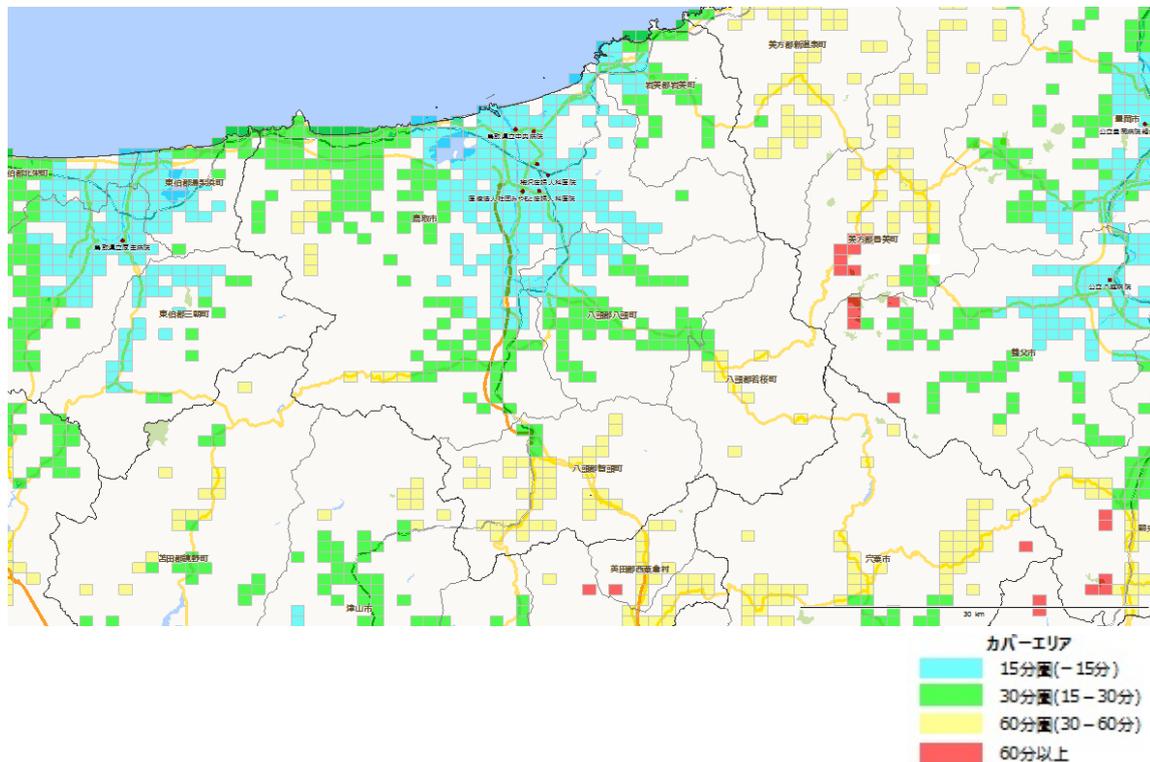
(東部医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表31-1-1 急性期医療密度指数マップ



図表31-1-2 分娩医療機関への所用運転時間(カバーエリア)

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400))

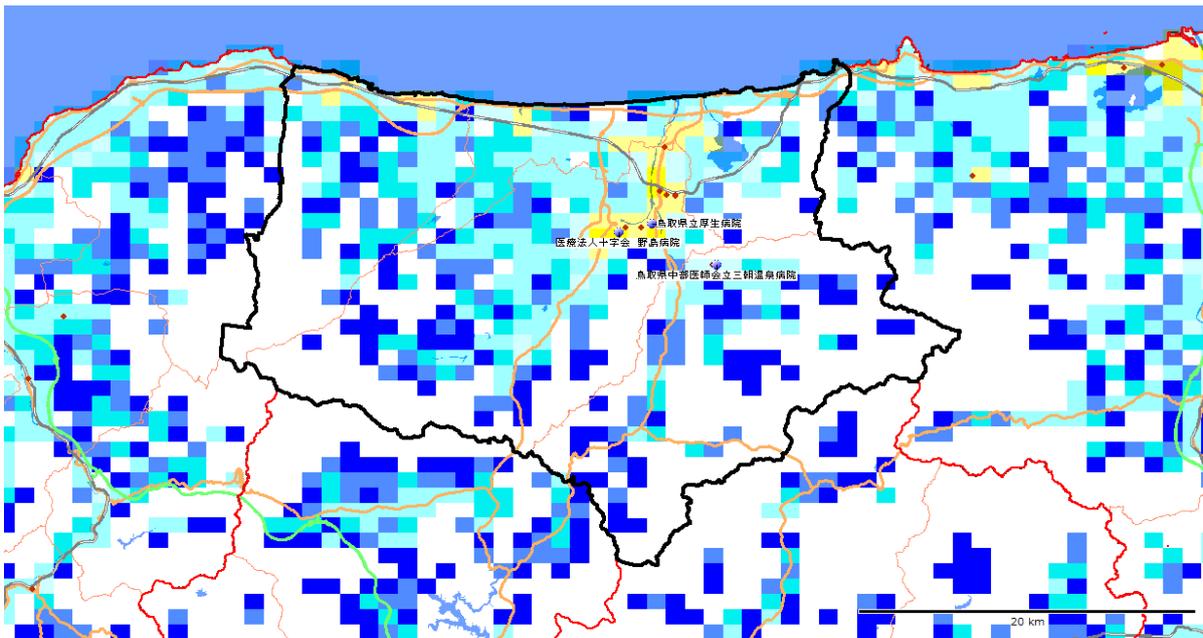


31-2. ちゅうぶ 中部医療圏

構成市区町村

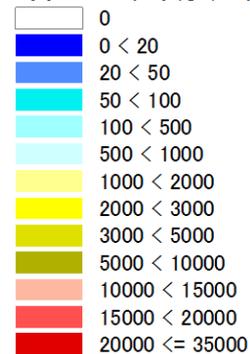
[倉吉市](#)
[北栄町](#)
[三朝町](#)
[湯梨浜町](#)
[琴浦町](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布(1km²区画単位)

1km²区画(1km²メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km²以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
 出所：国勢調査(平成22年、総務省)地図情報GIS
 Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ

区画内人口(1平方キロ)



DPC病院



● 一般病院

(中部医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 中部(倉吉市)は、総人口約104千人(2015年)、面積780km²、人口密度は134人/km²の過疎地域型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 中部の総人口は2025年に95千人へと減少し(2015年比-9%)、2040年に79千人へと減少する(2025年比-17%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の18千人が、2025年にかけて20千人へと増加し(2015年比+11%)、2040年には21千人へと増加する(2025年比+5%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 中部の一人当たり医療費(国保)は371千円(偏差値56)、介護給付費は297千円(偏差値63)であり、医療費、介護給付費ともに高い。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 中部の一人当たり急性期医療密度指数は1.2、一人当たり慢性期医療密度指数は1.33で、急性期の医療も慢性期の医療も充実している。

*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が46(病院医師数45、診療所医師数49)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともにほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は56と多い。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は59で、一般病床は多い。全身麻酔数の偏差値は44と少ない。中部には、年間全身麻酔件数が500例以上の鳥取県立厚生病院(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は52と療養病床数は全国平均レベルである。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値61と多く、回復期病床数は偏差値70と非常に多い。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は50で精神病床数は全国平均レベルである。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は48で診療所数は全国平均レベルである。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 中部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、2,150人(75歳以上1,000人当たりの偏差値58)と全国平均レベルを上回る。そのうち、介護保険施設の定員が1,415床(偏差値63)、高齢者住宅等が735床(偏差値49)である。介護保険施設は全国平均レベルを上回り、高齢者住宅等は全国平均レベルである。また、介護職員(介護施設等)の合計は、1,824人(75歳以上1,000人当たりの偏差値69)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設87、特別養護老人ホーム48、介護療養型医療施設なし(偏差値41)、有料老人ホームなし(偏差値37)、軽費ホームなし(偏差値43)、グループホーム72、サ高住51である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値44と少なく、在宅療養支援病院は偏差値54とやや多い。また、訪問看護ステーションは偏差値47とやや少ない。介護職員(在宅)の合計は、169人(75歳以上1,000人当たりの偏差値42)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は+13%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数でやや過剰ぎみである。

(中部医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

中部医療圏の総人口は、2005年113,177人が、2015年に104,320人と8%減少し、2025年の人口が94,548人と予測され、2005年→2025年の間に16%程度の減少が予測されている。

医療の需要(医療費ベース)は、2005年から2015年に1%増加し、2015年から2025年にかけて1%程度の減少が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

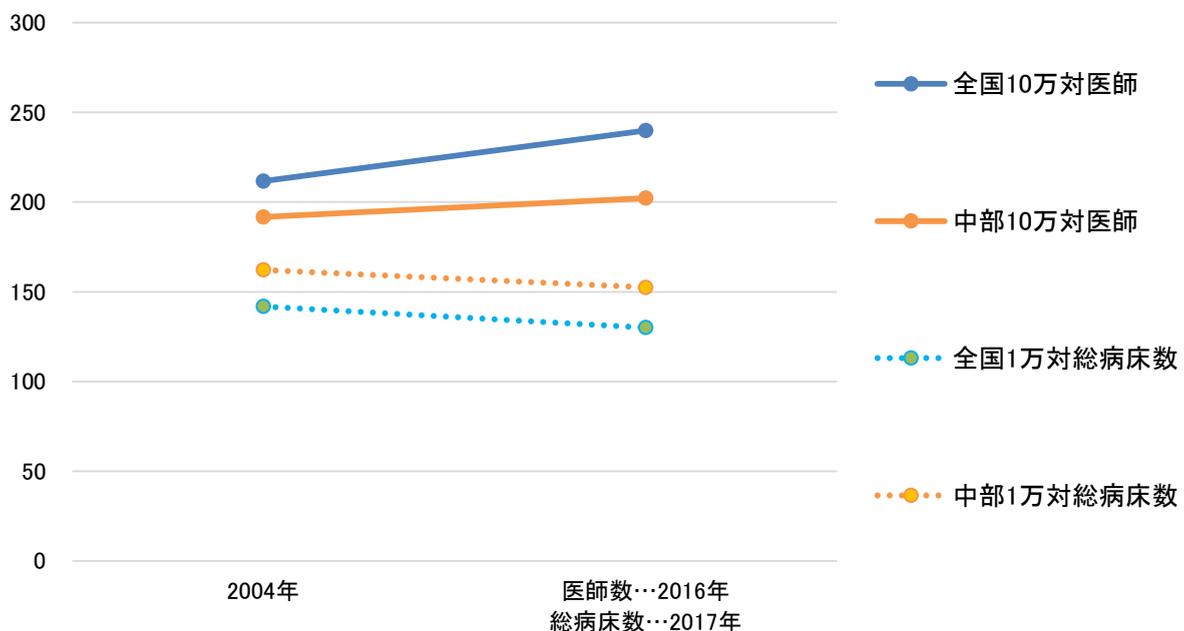
2004年の病院数が11(人口10万人当たり9.7病院(全国平均7.1)偏差値57)であったが、2017年に10(人口10万人当たり9.6病院(全国平均6.6)偏差値57)となり、13年間で1病院が減少した。

2004年の診療所数が99(人口10万人当たり87診療所(全国平均76)偏差値56)であったが、2017年に80(人口10万人当たり77診療所(全国平均80)偏差値48)と、19診療所が減少した。

2004年の総病床数が1,836床(人口1万人当たり162(全国平均142)偏差値54)であったが、2017年に1,591床(人口1万人当たり153(全国平均130)偏差値54)と、245床の減少、率にして13%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

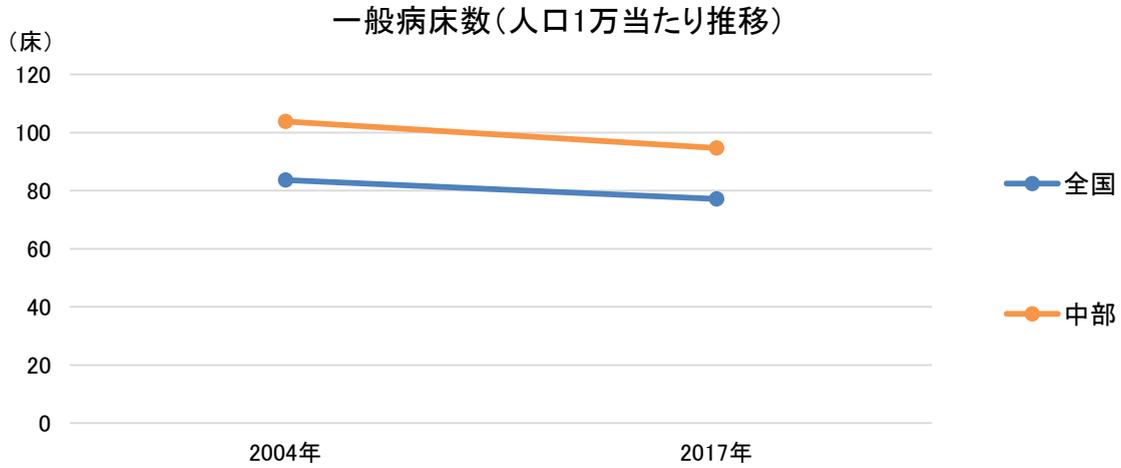
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が217人(人口10万人当たり192人(全国平均212人)偏差値48)であったが、2016年に211人(人口10万人当たり202人(全国平均240人)偏差値46)と、6人の減少、率にして3%の減少(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



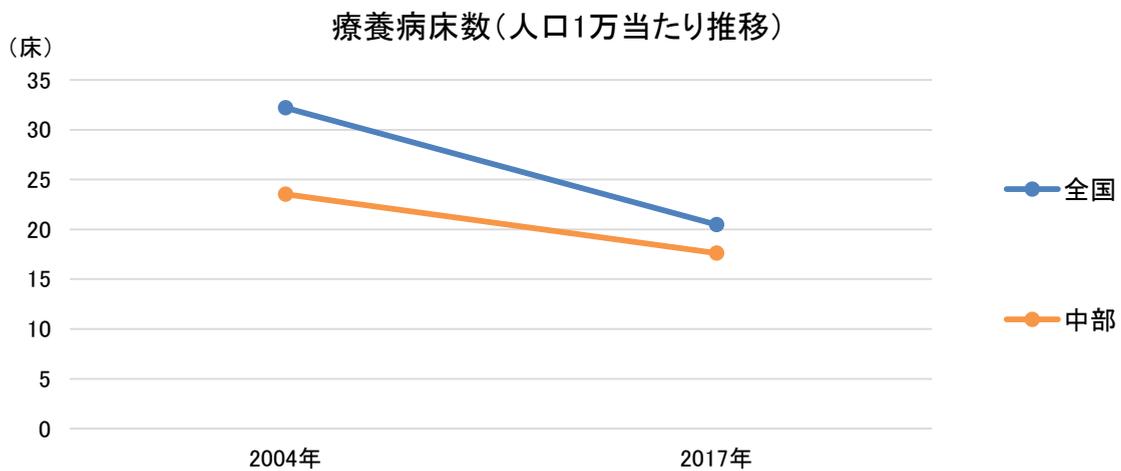
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が1,175床(人口1万人当たり104(全国平均84)偏差値57)であったが、2017年に988床(人口1万人当たり95(全国平均77)偏差値57)と、187床の減少、率にして16%の減少(全国平均8%の減少)が見られた。



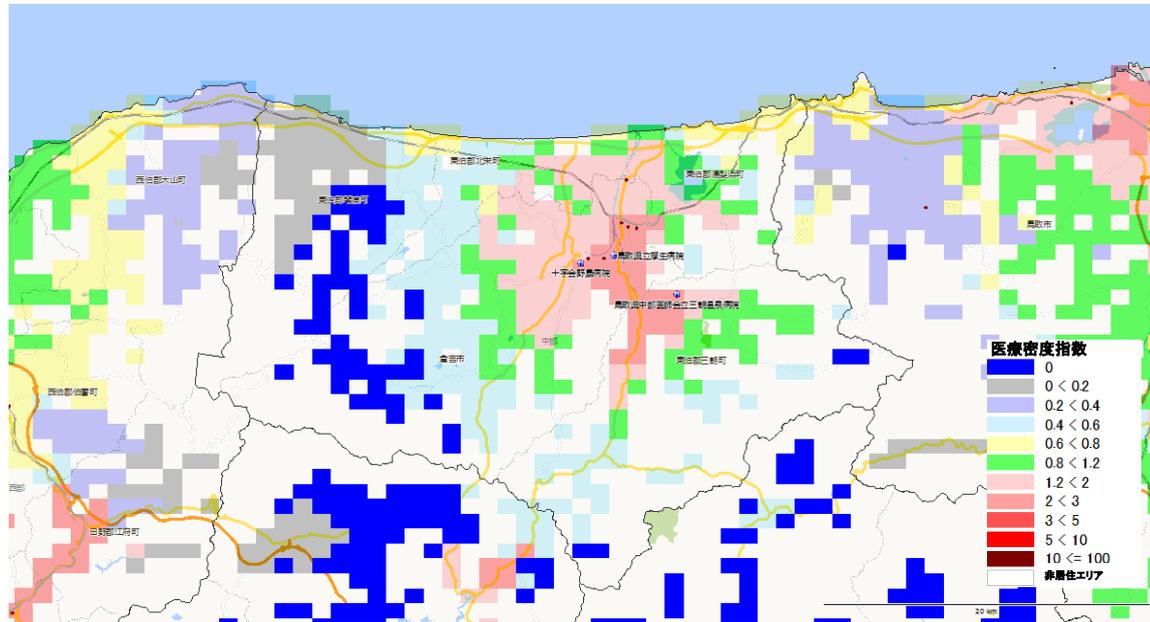
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が379床(75歳以上1,000人当たり24(全国平均32)偏差値45)であったが、2017年に321床(75歳以上1,000人当たり18(全国平均20)偏差値47)と、58床の減少、率にして15%の減少(全国平均11%の減少)が見られた。



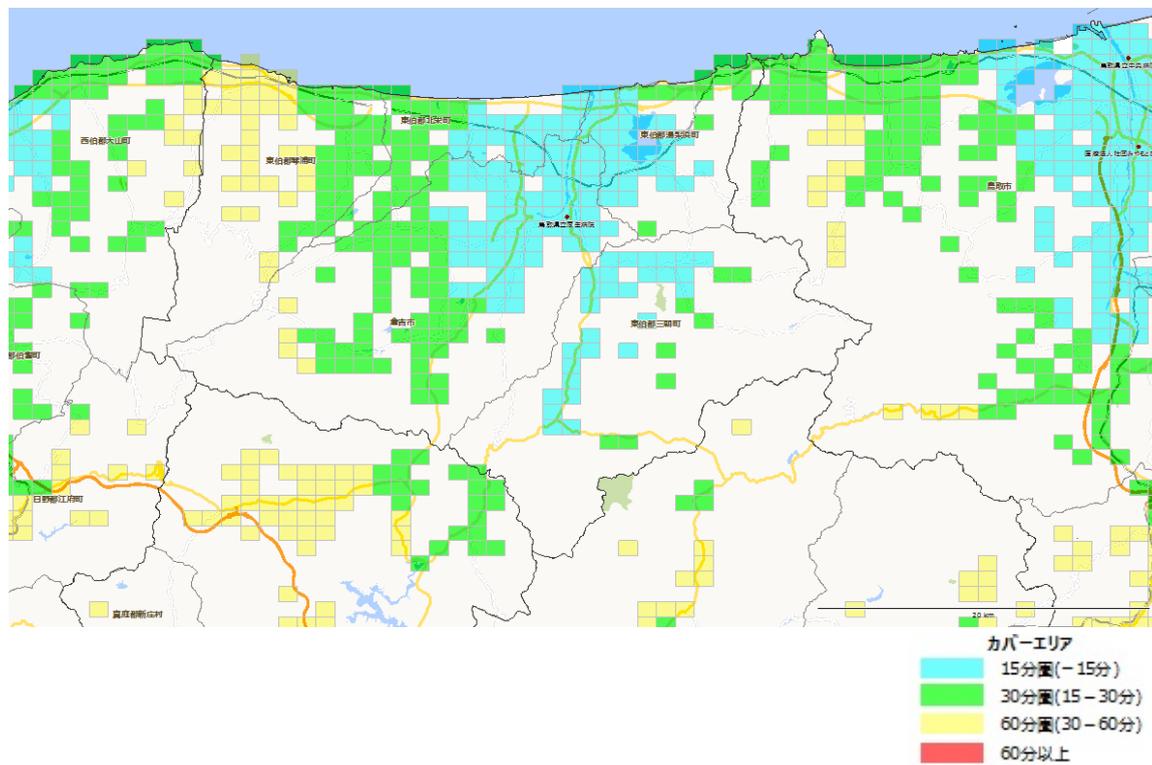
(中部医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表31-2-1 急性期医療密度指数マップ



図表31-2-2 分娩医療機関への所用運転時間(カバーエリア)

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400))

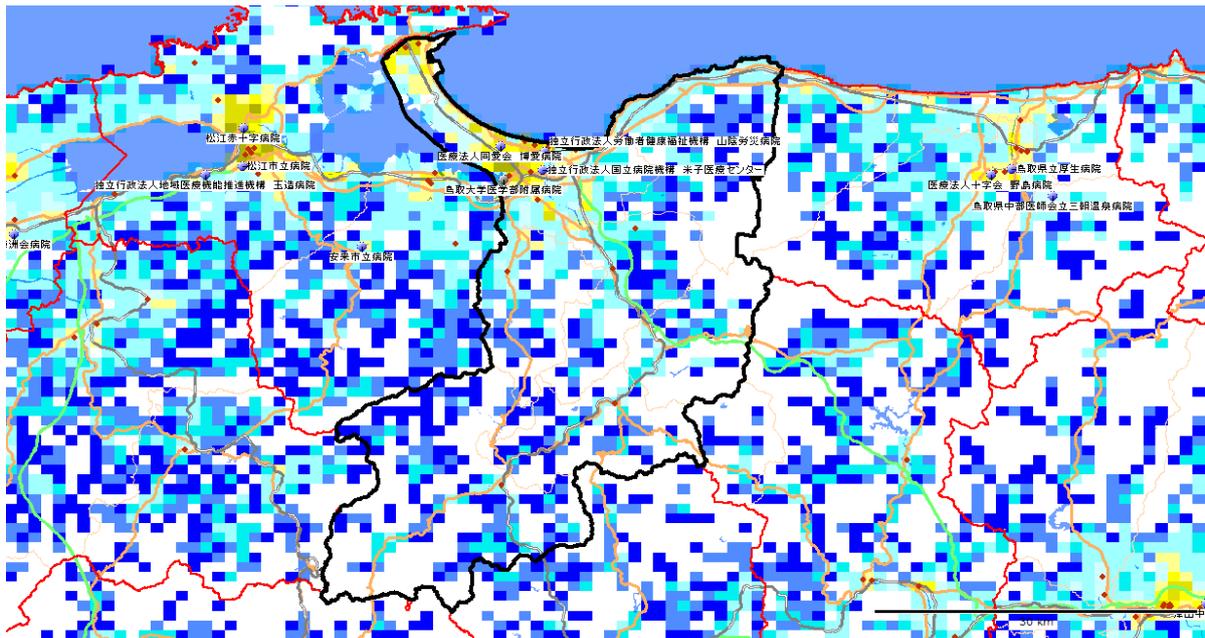


31-3. せいぶ西部医療圏

構成市区町村 [米子市](#) [境港市](#) [日吉津村](#) [大山町](#)
[南部町](#) [伯耆町](#) [日南町](#) [日野町](#)
[江府町](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布(1km²区画単位)



1km²区画(1km²メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km²以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
 出所: 国勢調査(平成22年、総務省) 地図情報GIS Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ



(西部医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など：西部(米子市)は、総人口約237千人(2015年)、面積1,208km²、人口密度は196人/km²の地方都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測：西部の総人口は2025年に226千人へと減少し(2015年比-5%)、2040年に205千人へと減少する(2025年比-9%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の38千人が、2025年にかけて45千人へと増加し(2015年比+18%)、2040年には45千人とほぼ変わらない(2025年比±0%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費：西部の一人当たり医療費(国保)は392千円(偏差値60)、介護給付費は296千円(偏差値63)であり、医療費、介護給付費ともに高い。

【医療の現状】

*入院医療の充実度：西部の一人当たり急性期医療密度指数は1.3、一人当たり慢性期医療密度指数は1.07で、急性期の医療は充実しているが、慢性期の医療は全国平均レベルである。

*医師・看護師の現状：総医師数の偏差値が69(病院医師数69、診療所医師数64)と、総医師数は非常に多く、病院医師数は非常に多く、診療所医師数は多い。総看護師数の偏差値は61と多い。

*一般病床等の現状：人口当たりの一般病床の偏差値は56で、一般病床は多い。全身麻酔数の偏差値は47とやや少ない。西部には、年間全身麻酔件数が2000例以上の鳥取大学医学部附属病院(I群・救命)、1000例以上のNH0米子医療センター(III群)、山陰労災病院(III群)がある。

*療養病床の現状：人口当たりの療養病床の偏差値は54と療養病床数はやや多い。

*リハビリの現状：総療法士数は偏差値64と多く、回復期病床数は偏差値61と多い。

*精神病床の現状：人口当たりの精神病床の偏差値は53で精神病床数はやや多い。

*診療所の現状：人口当たりの診療所数の偏差値は59で診療所数は多い。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状：西部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、4,936人(75歳以上1,000人当たりの偏差値66)と全国平均レベルを大きく上回る。そのうち、介護保険施設の定員が2,874床(偏差値62)、高齢者住宅等が2,062床(偏差値58)である。介護保険施設、高齢者住宅等ともに全国平均レベルを上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、3,705人(75歳以上1,000人当たりの偏差値68)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設83、特別養護老人ホーム48、介護療養型医療施設44、有料老人ホーム46、軽費ホーム65、グループホーム54、サ高住66である。

*在宅ケアの現状：在宅療養支援診療所は偏差値54とやや多く、在宅療養支援病院は偏差値49と全国平均レベルである。また、訪問看護ステーションは偏差値63と多い。介護職員(在宅)の合計は、473人(75歳以上1,000人当たりの偏差値48)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルである。

*介護の2025年の需要予測：2025年の介護充足度指数は+11%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数でやや過剰ぎみである。

(西部医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

西部医療圏の総人口は、2005年246,366人が、2015年に236,511人と4%減少し、2025年の人口が226,058人と予測され、2005年→2025年の間に8%程度の減少が予測されている。

医療の需要(医療費ベース)は、2005年から2015年に7%増加し、2015年から2025年にかけて2%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

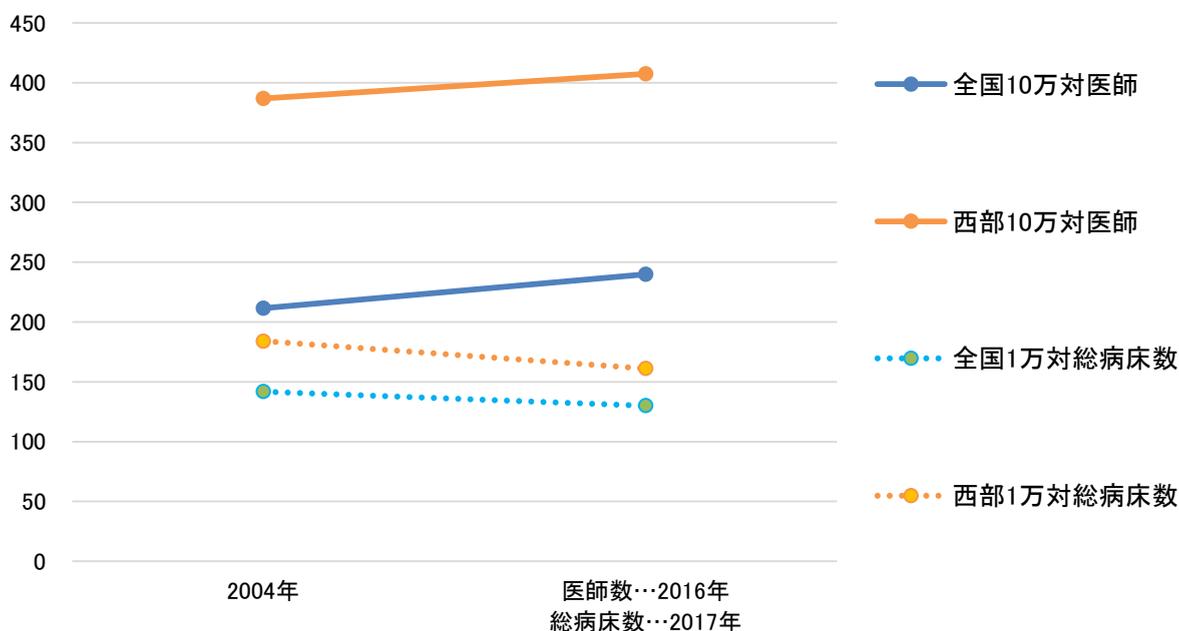
2004年の病院数が20(人口10万人当たり8.1病院(全国平均7.1)偏差値53)であったが、2017年に20(人口10万人当たり8.5病院(全国平均6.6)偏差値54)となり、13年間で増減がなかった。

2004年の診療所数が241(人口10万人当たり98診療所(全国平均76)偏差値61)であったが、2017年に228(人口10万人当たり96診療所(全国平均80)偏差値59)と、13診療所が減少した。

2004年の総病床数が4,532床(人口1万人当たり184(全国平均142)偏差値58)であったが、2017年に3,811床(人口1万人当たり161(全国平均130)偏差値56)と、721床の減少、率にして16%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

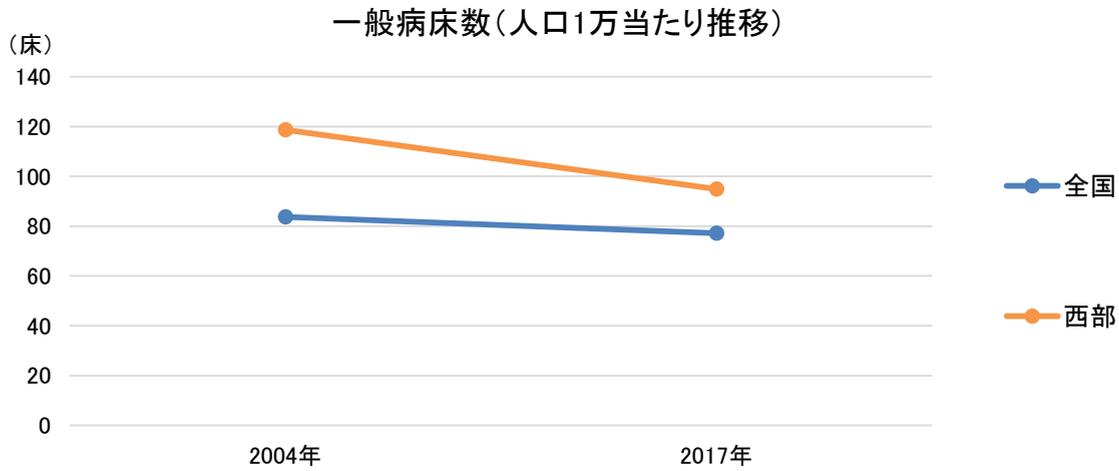
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が953人(人口10万人当たり387人(全国平均212人)偏差値71)であったが、2016年に964人(人口10万人当たり408人(全国平均240人)偏差値69)と、11人の増加、率にして1%の増加(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



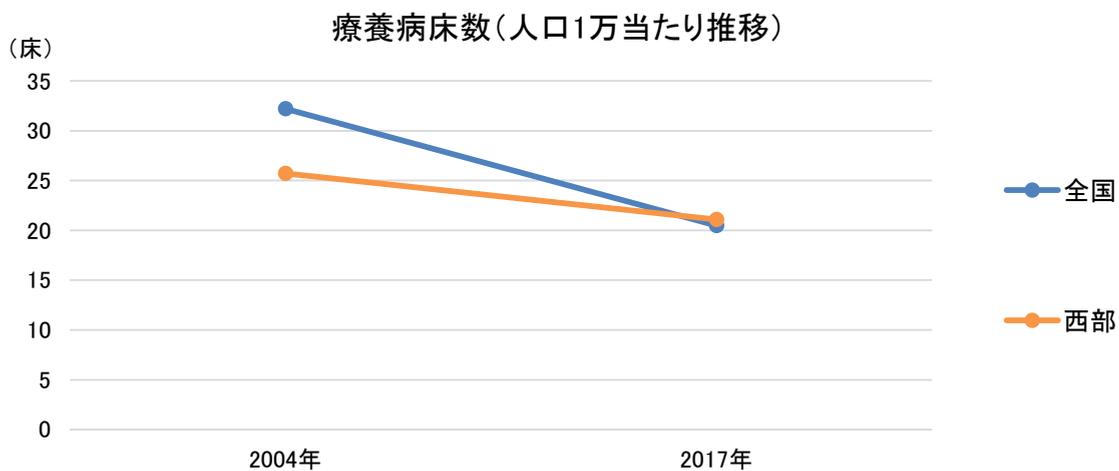
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が2,924床(人口1万人当たり119(全国平均84)偏差値62)であったが、2017年に2,243床(人口1万人当たり95(全国平均77)偏差値57)と、681床の減少、率にして23%の減少(全国平均8%の減少)が見られた。



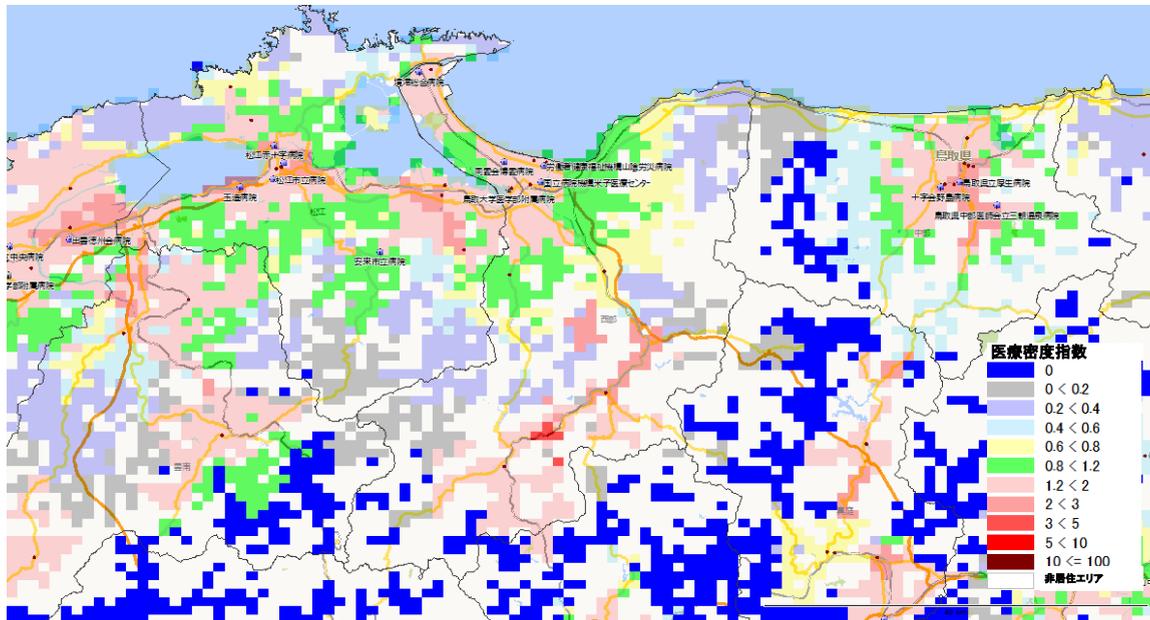
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が782床(75歳以上1,000人当たり26(全国平均32)偏差値46)であったが、2017年に793床(75歳以上1,000人当たり21(全国平均20)偏差値51)と、11床の増加、率にして1%の増加(全国平均11%の減少)が見られた。



(西部医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表31-3-1 急性期医療密度指数マップ



図表31-3-2 分娩医療機関への所用運転時間 (カバーエリア)

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400))

